

徳島県から新たに発見されたナンゴクヒメミソハギ *Ammannia auriculata* Willd. (ミソハギ科)

茨木 靖¹・小川 誠¹・木下 覺²・中村俊之³

[Yasushi Ibaragi¹, Makoto Ogawa¹, Satoru Kinoshita² and Toshiyuki Nakamura³ : First discovery of *Ammannia auriculata* Willd. (LYTHRACEAE), a naturalized plant, from Tokushima Prefecture, Japan]

キーワード：移入種，環境保全，植物誌

2011年9月に徳島県小松島市在住の多田裕氏より，農地に群生する見慣れない植物に関しての問い合わせがあった（図 1a）．その後の検討により，これがナンゴクヒメミソハギ *Ammannia auriculata* Willd. であると判明し，徳島県からは初出であることがわかった．過去の標本を調べたところいくつかの知見が得られたので報告する．

本種は，北アメリカ原産（ただし，近田（2003）によればアフリカ，アジア，アメリカの熱帯原産とされる）の一年草で，現在では北アフリカ，中近東，アジアの熱帯から温帯にかけて広く分布している（清水ら，2001）．1968年に初島住彦・迫静男らによって，鹿児島県穎娃町で採集された（山崎，1974；清水ら，2001）．その後，10年程度で九州一円の水田に発生するようになり，アメリカミソハギの名で呼ばれていた（清水ら，2001）．現在では，神奈川県および九州南部，沖縄に分布している（近田，2003）．同属のホソバヒメミソハギ *Ammannia coccinea* Rottb. によく似た草本であるが，小花柄は，長さが2-5mmほどになり，ホソバヒメミソハギと比べ明らかに長いこと，茎に狭い翼があることなどが区別点とされる（清水ら，2001；近田2003）．また，蒴果も2-3.5mmで，ホソバヒメミソハギの3-4mmに比して小さいとされる（Ohba, 1999；村上，2001）．さらに，ひとつの花序につく花の数はナンゴクヒメミソハギが3から15個（普通は7）であるのに対し，ホソバヒメミソハギが3から5個（普通は3）と数が多いとされる（Haining & Graham, 2007）．

今回採集された標本（標本番号：TKPM-BSP076445）では，茎は直立し，無毛，4稜が細い翼となる．上半分から斜上する多数の枝を分け，高さはおよそ80cm．葉は，大部分が枯死しているが，残った葉は，狭皮針形で基部はやや矛型に張り出す．対生し，長さは2cm，幅は5mmほどである．果柄は，長さ5mmに達し，小果柄は1.5-2.0mmほどとなる．蒴果は，直径2-3mmほどの球形であり，果柄，小果柄および蒴果の大きさなどの形質から，ナンゴ

2012年2月6日受付，2月28日受理．

¹ 徳島県立博物館，〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園．Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

² 〒771-0372 鳴門市北灘町粟田字西傍示 288-1 Nishihohji 288-1, Awata, Kitanada-cho, Naruto-city, Tokushima 771-0372, Japan.

³ 有限会社ウェットランド研究所，³ Wetland Laboratory, Tatsumi-minami 5-6-29, Ikuno, Osaka, 544-0015 Japan.

クヒメミソハギであると同定される。

本種の発見された場所は、有機農法でイネを栽培している農地である。この年に限り、田植え前の耕起回数を減らしたところ、この草が顕著に見られるようになったとされる。このことは、本種の防除などの面からも興味深い点と言えよう。

また、徳島県立博物館所蔵の県内産ホソバヒメミソハギの標本を再確認したところ、1点のナンゴクヒメミソハギが含まれていた (TKPM-BSP221851)。これは、阿部近一氏によって1950年に徳島市内で採集されホソバヒメミソハギと同定されていたもので、我が国で初めて確認された1968年より20年近くさかのぼって本種が徳島県に生育していたことがわかる。

今回の発見は、多田氏の慧眼によるものであるが、これまでの著者らの度重なる調査でも発見されていないことから県内に広く分布している可能性は低い。今後は、本種の分布の広がりなどにより注意を払う必要がある。

なお、徳島県植物誌 (阿部 1990) ではホソバヒメミソハギについて、「昭和25年徳島市帰化確認」と記録されている。当館所蔵の阿部コレクションには1950 (昭和25)年に採集されたものは、今回ナンゴクヒメミソハギと同定された標本 (TKPM-BSP221851) しかない。さらに、その標本ラベルには「徳島市に初めて侵入帰化」と書かれており、これを元に徳島県植物誌でホソバヒメミソハギが「昭和25年徳島市帰化確認」とされたことは疑いがない。したがってホソバヒメミソハギの県内の侵入時期についても再検討が必要である。

標本：徳島県小松島市田浦町東内 Komatushima City, Tokushima Pref., Shikoku, Japan. (J. Tada 28 Sep. 2011, TKPM-BSP076445)；徳島県徳島市徳島本町満 Tokushima City, Tokushima Pref., Shikoku, Japan. (C. Abe 41196, 10 Oct. 1950, TKPM-BSP221851)。



図1. ナンゴクヒメミソハギ。a：証拠標本(J. Tada 28 Sep. 2011, TKPM-BSP076445)；b：花序の拡大。Bar = 5mm.

謝辞：本研究にあたり，小松島市の多田裕，多田純子の両氏にはナンゴクヒメミソハギの標本を寄贈いただいたほか，生育状況についての貴重な情報を頂きました．ここに記して謝意を表します．

引用文献

- 阿部近一．1990．徳島県植物誌．教育出版センター，徳島．
- Haining, Qin & Shirley Graham. 2007. *Ammannia* L. In Wu, Zhengyi and P. Raven, Co-chairs of Editorial Committee, Flora of China 13 : 275-276. Science Press (Beijing) and Missouri Botanical Garden Press (St. Louis).
- 近田文弘．2003．「ヒメミソハギ属」．清水建美編，日本の帰化植物．pp.142-143．平凡社，東京．
- 村上司郎．2001．ヒメミソハギ属．神奈川県植物誌調査会（編），神奈川県植物誌2001，pp.1030-1031．神奈川県立生命の星・地球博物館，小田原．
- Ohba, H. 1999. *Ammannia* L. In Iwatsuki K, Bufford D. E. et Ohba H. (eds.), Flora of Japan. Ilc : 207-208. Kodasha, Tokyo.
- 清水矩宏・森田弘彦・廣田伸七．2001．日本帰化植物写真図鑑．555pp．全国農村教育協会，東京．
- 山崎 敬．1974．ナンゴクヒメミソハギ．植物研究雑誌 **49**(7) : 224．